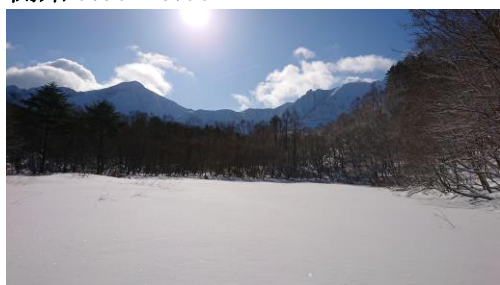


冬山トレーニング 裏磐梯スキー場

齋藤 宇

- 山行年月日:2020年2月2日
- メンバー:保科勝人、大竹尚子、栗田光基、外島正明、杉崎圭洋、齋藤憲一、窪田道男、齋藤宇
- コースタイム:裏磐梯スキー場下 P8:00 ~リフト終了点南西湿地帯トレーニング開始 9:30~3:00

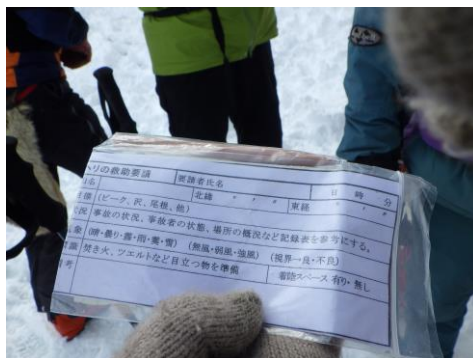


トレーニング会場から見た磐梯山

今年は雪が極端に少なく裏磐梯スキー場まで来ての冬トレとなった。

保科さんと尚子さんと幹衛さんは前日2/1から入って幹衛さんは前日のうちに滑って帰った。集合場所はスキー場下の下にある駐車場。トレーニング予定地は裏磐梯スキー場リフト終了点南西付近の湿地帯。そこに保科さんと尚子さんがすでにいると思ひ込んでしまい全員集合が遅れてトレーニングを始めるのが9:30頃になってしまった。山行をまとめるCLの立場として反省。集合場所はきちんと守ること。本番なら遭難や事故につながってしまうこともある。

さて、トレーニングの想定は雪崩発生後の①「搜索」、②「救出」、③「搬送」をイメージした行動と計画した。まず①「搜索」。雪崩発生後の状況把握、パー



緊急連絡書

ティー不明者の確定。各自のビーコンの動作確認。磁力線をたどるイメージや、生存確率を考えた迅速な役割分担などを考えた行動。いろいろ意見を出し合いながら搜索を何度も実施。小休止後、埋没者を想定して埋めたザックを探し当て、プローブの感触を確かめる。最後に要救助者の搬送。いろいろな意見を交えて安全を確保できるところまでの移動と迅速な救助要請がポイントだと結論。銀マットを敷いたツエルトに包むような形で引きずって移動させるのが早くて簡易だと思った。13:00 トレーニング終了。いざという時の行動の確認ができた有意義なトレーニングになった。



リーダーの指示でビーコン搜索訓練